

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090500081		
法人名	有限会社ひまわり介護サービス		
事業所名	グループホームサンフラワーⅡ		
所在地	群馬県太田市台之郷町307番地		
自己評価作成日	平成23年4月25日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・基本理念に基づき運営方針を着実に実施する。 ・利用者の安全を確保しつつ抑圧感のない自由な暮らしを支援している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階
訪問調査日	平成23年5月18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>代表者と管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションを図るよう心がけている。リーダーを配置して、利用者の状況等を知っている現場の職員の意見や気づき等を十分に聞き、運営に反映させている。利用者に喜びや楽しみをもたらす食事を大切に考え、旬の食材や新鮮なものを採り入れ、行事・季節感のある本格的な料理を提供している。入浴は希望があれば毎日できる体制になっている。職員の態度は優しく穏やかで、丁寧な言葉で利用者へ声をかけ、思いや意向の把握をしながら、利用者本位の支援に取り組んでいる。室内の環境は整備され、清潔に保持されている。ホームの雰囲気は明るく、日常生活の場面で利用者の笑顔が多く見受けられ、居心地よく過ごされている様子が伺えた。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を日常業務で実践するため、全職員で朝礼や、引継ぎ等の中で話をし確認し合っている。	事業所が目指す地域密着型サービスのあり方を示した独自の理念を掲げている。管理者と職員は、朝礼や引継ぎ時等で、理念が日々のケアに反映されているか確認し合い、実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の一員として、老人会、生き生きサロン、リサイクル活動や行事等の地域活動に参加している。また、近くの小学生が遊びに来てくれるなど地元の人々と交流がある。	地域の一員として、利用者・職員が老人会(敬老会)・生き生きサロン・廃品回収・夏祭り等に参加している。小学生が遊びに来てくれたり、実習生の受け入れ等、日頃から地域住民との交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々から時々、認知症の相談を受けている。また、人材育成の貢献として実習生の受け入れは、積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族・行政・自治会関係者等に参加していただき、ホームからの説明、報告とともに、メンバーからの意見、要望を受け、それをサービスの向上に活かしている。	運営推進会議は、定期的開催されている。運営状況や評価等について説明・報告を行い、話し合いを行っている。地域住民メンバーの意見により、利用者が生き生きサロンに参加し、地域の人々と交流している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に出席してもらうだけでなく、認定更新の機会等に訪庁し、市の協力を得てサービスの質の向上に取り組んでいる。	運営推進会議の開催通知、利用者の報告や更新申請の機会等に市の窓口に出向き、相談や情報交換を行っており、市の担当者と連携を図りながらサービス向上に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員、研修等で身体拘束について正しく認識しており、身体拘束のないケアを実践している。 職員の見守り等により玄関の施錠は、していない。	「身体拘束排除マニュアル」を作成し、全職員が会議等で研修を行い、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中、玄関は開錠しており、利用者が外出しそうな時には、さりげなく声をかけたり、見守りながらついていく等、安全面に配慮している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング等により虐待の防止について理解を図っている。また、常に虐待が見過ごされないよう、防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	内外の研修を通し、権利擁護に関する制度を理解し活用できるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者、家族の不安・疑問点を聞き、時間をかけて説明を行い、理解・納得が得られるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族等とは、何でも話せる雰囲気づくりをしており、だされた意見、要望等はミーティング等で話し合い、運営に反映させている。	日常の会話の中から、本人の希望等を聴いている。家族等の来訪時や運営推進会議の際には、何でも話してもらえるよう、雰囲気づくりに努めている。出された意見等は職員間で話し合い、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から、コミュニケーションを大切にし、ホーム内での打ち合わせ等で、様々な意見を聞き、その意見を元に改善するように心がけている。	代表者や管理者は、日頃から職員とのコミュニケーションを図るよう心がけている。会議等で職員の意見や気づき等を聞いたり、リーダーを通して職員の様々な意見・要望等を聞き、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のレベル向上は、施設のレベル向上に直接つながると考えている。新しい資格への挑戦を促したり、各自がステップアップを図っていけるように、助言している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が中心となり指導したり、勉強会などを行っている。また、職員には、社外での研修等の受講も勧めている。研修結果は、報告書を提出させミーティング等の際、発表してもらっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会への参加や、近隣のグループホームの職員との交流活動を通じ、また活用してサービスの質の向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者本人が困っていること、不安なことや要望など、よく聴いて信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に料金等の説明はもちろんのこと、家族が困っていること、不安なことなどをじっくり聴き、それらを受け止め、対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族が、何を必要としているのかを見極め、他のサービスも含め、検討できるように説明している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者と共に過ごす時間を多く持ち、喜怒哀楽を共に感じるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の状況、家族としての不安や感情を共有し、よい意味で利用者を支えていけるように、対応している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの理美容院や商店での買い物に行くことを支援するなど、一人ひとりの生活習慣を大切にしている。	親族や友人・近所の小学生等が遊びに来てくれる。行きつけの理・美容院や趣味の材料・日用品の買い物に出かけている。家族等と一緒に墓参りや外食、外泊をしており、継続的な交流ができるよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の個性を大切に、誰一人孤立せず、お互いに関われるように、職員が介添えをしながら、見守っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、退去先の病院等を訪問し、声かけをしたりしている。また、事情があり、他の施設へ移っても、できる限り相談等に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の行動や表情などから利用者一人ひとりの希望や意向の把握に努めている。把握が困難な場合には、ご家族や関係者から情報を得ている。	日常の会話や表情・行動等から、本人の希望や意向を汲みとるようにしている。困難な場合は、家族等や関係者から情報を得て、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	プライバシーに配慮しながら、家族等から生活歴を聞いたり、本人とのコミュニケーションの中から今まで歩んできたことの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、睡眠、排泄、入浴、バイタルチェック等や暮らしの中の行動から本人の状況を総合的に把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族には、日頃の関わりの中で思いや意見を聴き、介護計画に反映させている。アセスメントを基に利用者の状態を踏まえた計画書を作成し、目標を立て、介護できるように心がけている。	日々の関わりの中で、本人・家族等から思いや意向を聴き、介護計画に反映させている。アセスメントを基に職員間で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行い、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員が随時、利用者の状態を介護記録および申し送り状に記載し、申し送り時に介護支援専門員に報告、介護支援専門員は状況を把握した後に、支援経過に反映している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人・家族の状況に合わせて、通院や送迎などの支援を柔軟に対応できるよう心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアは随時、受入れをしている。民生委員、消防関係や警察などの協力で周囲の安全に力をかけていただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を大切に、なじみのかかりつけ医の受診を支援している。また、協力病院とも連携しつつ、適切な医療を受けられるようにしている。	本人・家族等の意向を確認し、希望するかかりつけ医で受診している。協力医とも連携を図り、週に1回の往診が行われている。家族同行の受診が不可能な場合は、職員が代行して受診結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム内に看護師を配置し、看護師・介護職員が共に相談・協力しながら日々の健康管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護支援専門員とホームの看護師が医療機関と話し合いをし、状態の確認や退院の見込みなどを理解し状況に合わせて行動している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護について、本人、家族に説明を行い同意を得ている。情報は共有し、キーパーソンの家族と話し合い、本人が最後まで安心して生活できるように支援している。	入居時に「看取り介護について」本人・家族等に説明を行い、同意を得ている。状態等の変化に応じて、本人・家族、主治医と話し合い、本人・家族等の意向を踏まえ、関係者全員で方針を共有しながら支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防の救命救急法を研修実施。応急手当については、看護師の指導の下に、訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時に利用者が避難できるよう定期的に防災訓練を行っている。この度、地域住民を含めた災害時連絡網を作成する。	年2回、消防署の協力を得て、利用者、区長・民生委員と共に総合防災訓練を実施している。「防災及び非常災害時対応マニュアル」を作成している。この度、地域住民を含めた災害時連絡網を作成する。	利用者・職員等が確実な避難方法を身に付けられるように、避難誘導訓練の増加に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の自尊心を傷つけるような言葉や対応については研修やミーティングを行い、お互いに注意するように心がけている。個人情報の取り扱いについては、マニュアルを下に全職員で取り組んでいる。	利用者の自尊心を傷つけるような言葉や対応について、研修やミーティングを行い、職員間で注意し合っている。個人情報の取り扱いに関しては、マニュアルを作成し、秘密保持の徹底を図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の訴えを表情や全身の反応から察知し、個々に合わせた説明を行い、納得した生活が送れるよう、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位を心がけ、決まりや日課的な過ごし方はせず、一人ひとりの状態や希望に沿って、散歩やカラオケ等、日々に楽しみがもてるような暮らしを支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者の好きな身だしなみやおしゃれができるよう、なじみの理美容院など利用したい方には、個別に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は、旬の食材や新鮮なものを探り入れるなどし、おいしく食べられるよう工夫している。食事中は、職員が同じテーブルに着き、和やかな雰囲気できりげなく介助できるようにしている。	利用者は下ごしらえ・テーブル拭き等、職員と一緒にやっている。利用者の希望を献立に取り入れ、旬の食材や新鮮なものを使って丁寧に調理している。職員は同じテーブルを囲み、さりげなく介助しながら、美味しく食べられるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの体調を医師の診断などから把握し、バランスのよい食事の提供を心がけ、水分補給などの調整も気をつけて行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	起床時、食事の後などで、歯磨きと入れ歯の手入れ支援および、見守りをし、さらに日常、うがいへの誘導に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	自尊心に配慮し、尿意の時間や習慣を把握してトイレで排泄ができるように、トイレ誘導をしている。失敗した場合は、周囲に気づかれないように対応している。	排泄チェック表を使用し、尿意の時間や習慣を把握して個別にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄ができるよう支援している。おむつ等の使用については、見直しを行っている。失敗時の対応には十分配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を多めに補給していただいたり、食事時に食物繊維、野菜、負担の無いように歩行、おなかのマッサージを取り入れたり工夫し排便を促している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者のその日の状況を確認し、声かけ等により、本人の意思確認の後、入浴をしていただくかどうかの判断をしている。仲の良い方同士と一緒に入浴を希望する場合は、意向に沿うようにしている。	毎日入浴できる体制になっている。本人の状況確認を行い、声掛け等により本人の希望を確認して入浴支援を行っている。入浴拒否の場合には、言葉かけ等の工夫をしている。希望があれば同姓介助も行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活リズムを崩さないように休息させたり、安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理が出来る利用者は見守りをして確認し、それ以外の利用者は職員が管理し、その指示通りに服用していただき、症状の変化を確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中で、その人の能力に合わせた役割を担ってもらい、楽しみ・気晴らしができるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、買い物等へお誘いし、なるべく施設内だけにとどまらないようにしている。その際、職員が付き添いをし、心身の活性につながるよう支援している。	天候や利用者の希望・体調を考慮しながら、散歩やドライブ、買い物、外食、美容室等に出かけている。初詣、季節毎の花見(桜・芝桜・藤・紫陽花・菊等)、地域の生き生きサロン等に出かける等、家族や地域の人々と協力しながら、出かけられるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者に、お小遣い帳をお見せし、現在どのくらいあるかなど確認をしていただき、出来る限り理解していただいている。外出時には、本人がお金を支払えるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を利用する際には、他の利用者に聞こえないように配慮して、使用していただいている。手紙は、利用者と一緒に、散歩や買い物途中でポストに投函するなど、十分な配慮をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花等を飾るなど季節感や生活感のあるものを採り入れて、利用者が住んでいた家と同じように居心地よく過ごせるようにしている。飾りつけ等は、利用者と職員と一緒に考えて行っている。	玄関には季節の花や人形等を飾っている。ホールに行事の写真・利用者の作品(鯉のぼり・ちぎり絵等)が飾られている。窓やベランダからは、田園風景が眺められ開放感がある。カラオケを設置しており、利用者が交代で歌い楽しく過ごしている様子が伺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを置き、利用者が気軽にくつろげるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居以前から使用していた家具や化粧品など、備品を居室に持ち込んでいただいている。使い勝手のよいなれたものを使うことで、利用者の居心地のよさや安心感につながるような配慮をしている。	居室には、寝具・テレビ・CD・レコードプレイヤー・衣装ケース・書籍・観葉植物・カレンダー等、馴染みのものや思い出の品々が持ち込まれ、居心地良く過ごせるような配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりを設置し、台所、浴室等では工夫により身体機能の低下を補っている。また、一人ひとりのわかることを活かして、必要な目印をつけたり、物の配置などの環境整備に努めている。		